

## 第1回つくば市立地適正化計画検討委員会

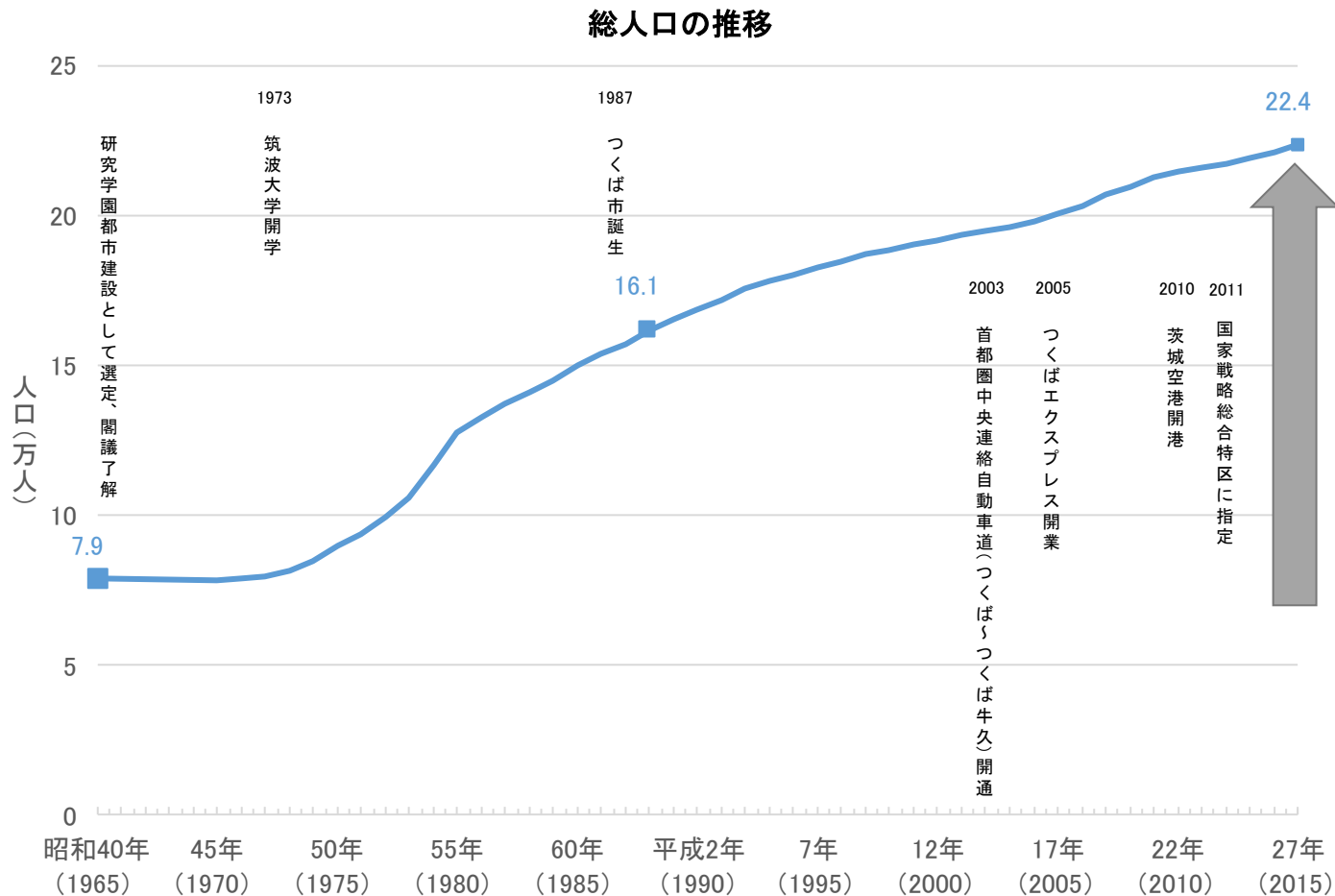
## つくば市を取り巻く現状把握等

## 〈目次〉

1. 人口	・・・p1
2. 土地利用	・・・p16
3. 交通	・・・p34
4. 居住に関する市民意向	・・・p40

## 1)市全体の人口推移

- つくば市の人口（2015年）は約22.4万人
- 研究学園建設計画の閣議了解後（1965年）、約50年間で、14.5万人増加
- つくば市誕生後（1987年）、約30年間で、6.3万人増加



研究学園建設計画から  
50年間で  
14.5万人 増加

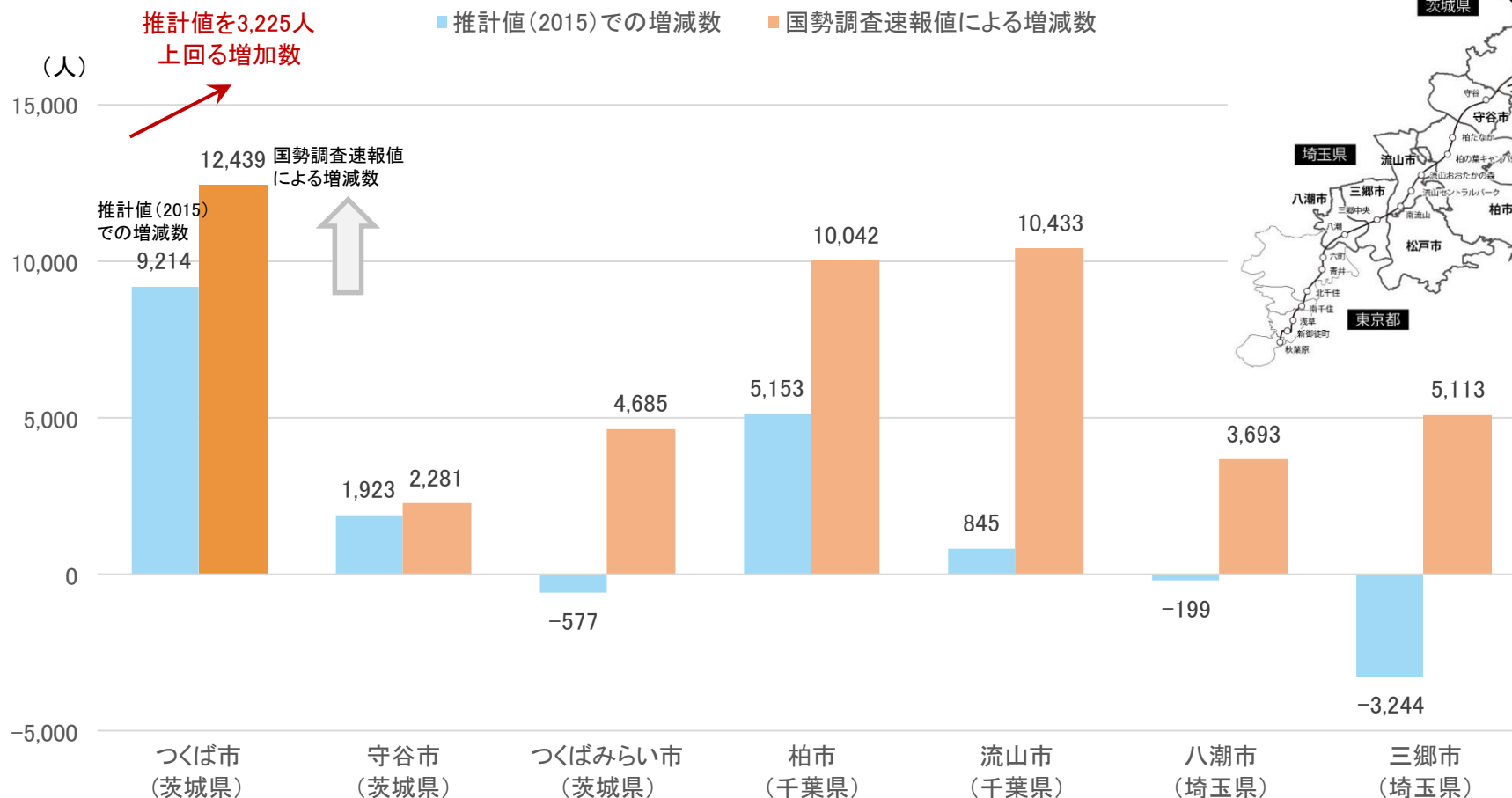
## (参考) 最新の国勢調査結果による人口増加数

- つくば市の人口増加数は、TX沿線市（埼玉県、千葉県、茨城県）で最大

TXと沿線自治体



TX沿線市における2010年～2015年の人口増減数

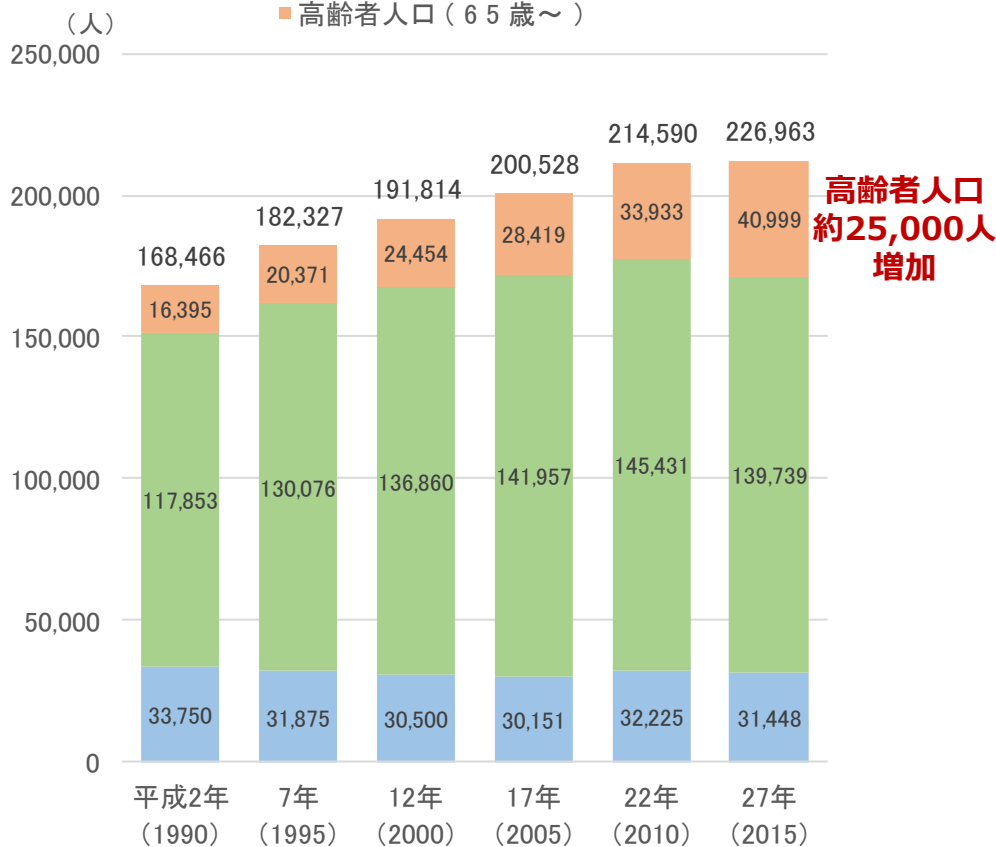


## 2) 年齢構成別人口

- 20年間で、高齢者人口は数、比率とも増加
- 高齢者人口比率（18.1%）は、県全体（26.5%）よりも低いが、少子高齢化は進行

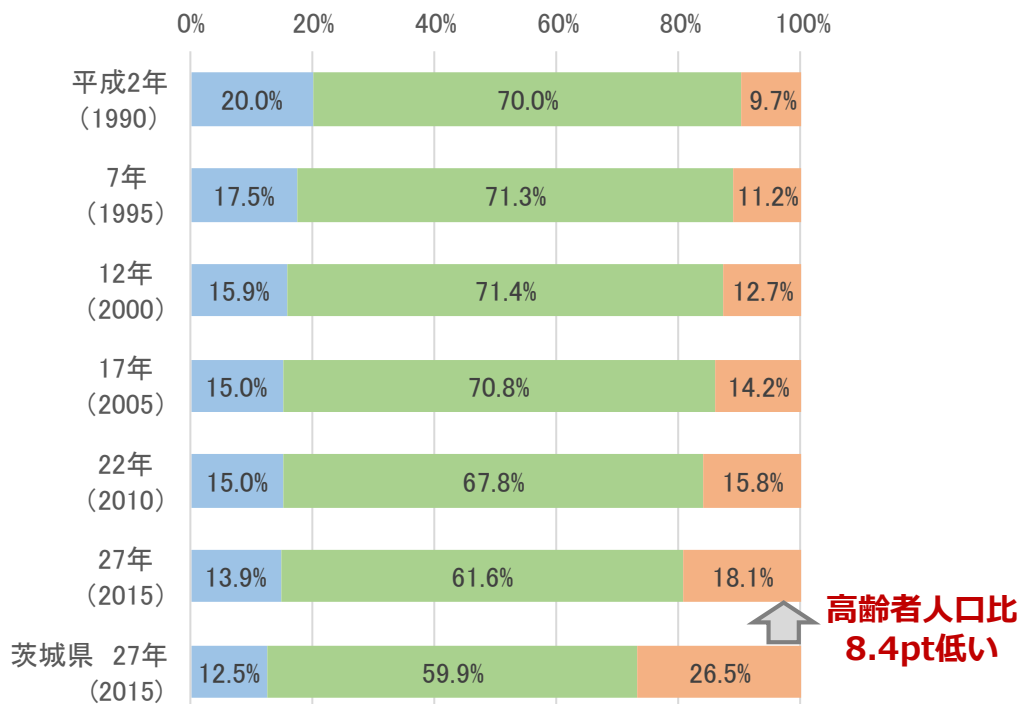
### 年齢構成別人口の推移

- 年少人口（0～14歳）
- 生産年齢人口（15～64歳）
- 高齢者人口（65歳～）



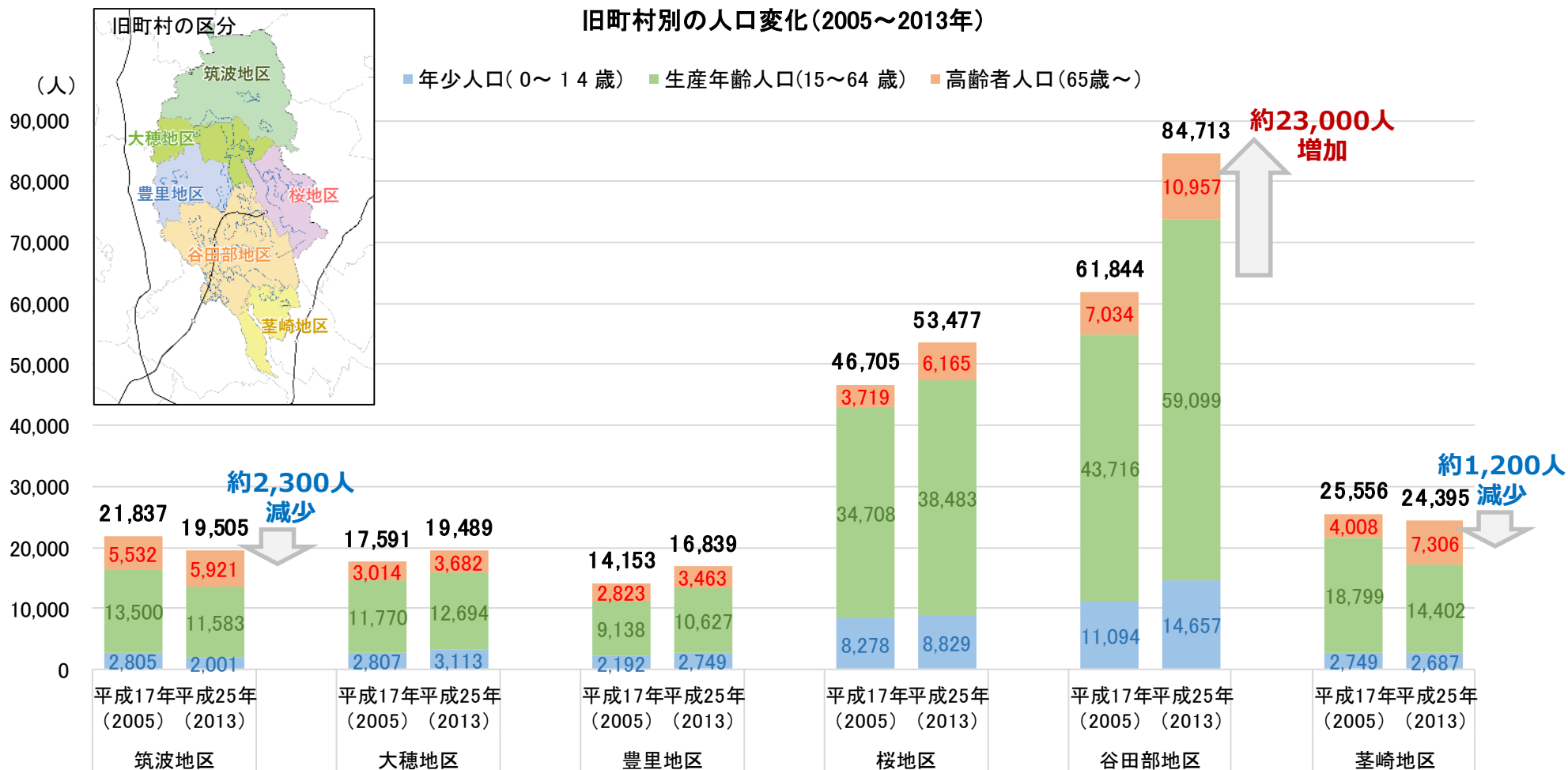
### 年齢構成別人口(比率)の推移

- 年少人口（0～14歳）
- 生産年齢人口（15～64歳）
- 高齢者人口（65歳～）



### 3) 旧町村別の人口動向

- この約10年間は、つくばエクスプレス沿線地区を含む谷田部地区で、約23,000人増加
- 筑波地区、荃崎地区は人口減少



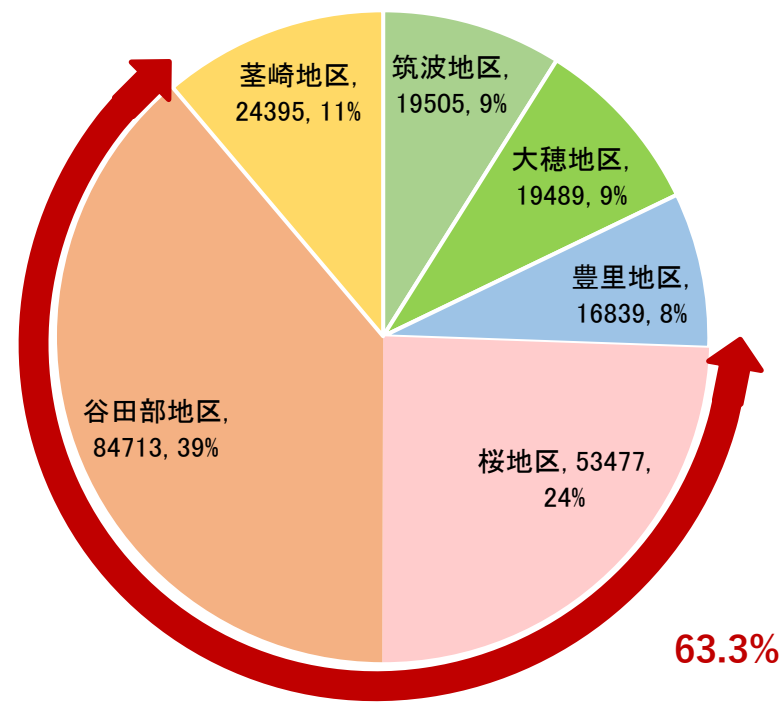
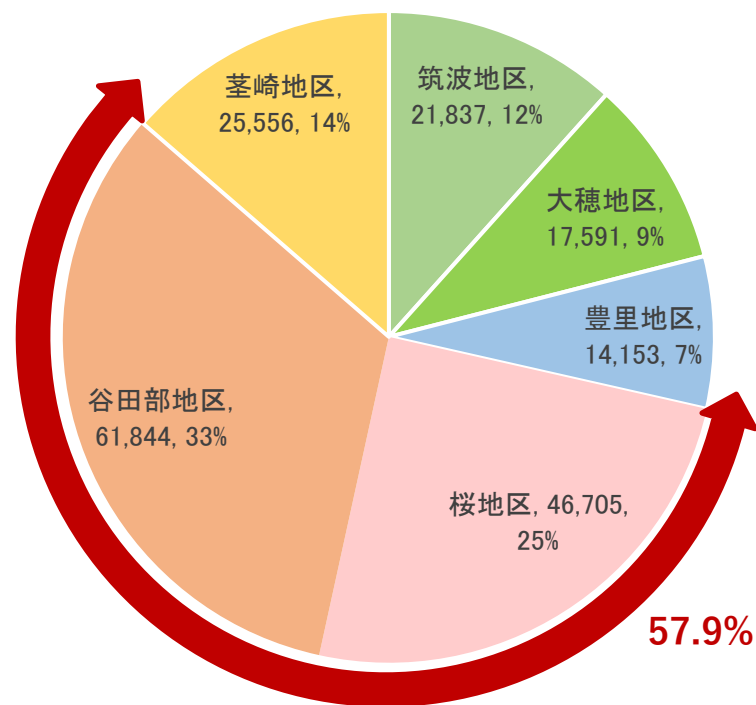
## 4) 旧町村別の人口構成

- 市全体の人口構成は、この10年間でも変化
- 研究学園地区、TX沿線地区を含む谷田部地区、桜地区が占める割合は6割を超える

旧町村別の人口構成比の変化

平成17年（2005）

平成25年（2013）



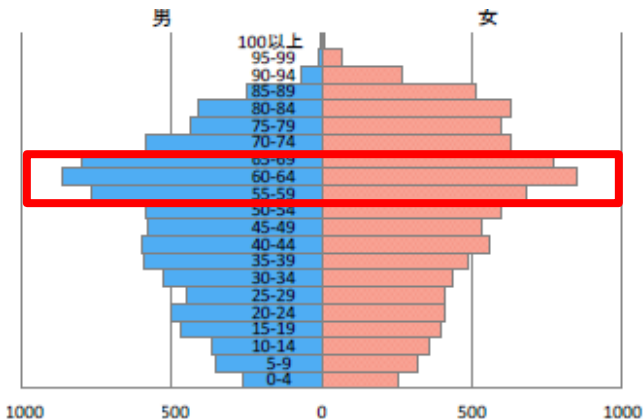
## 5) 旧町村別人口年齢構成

- 旧町村別に、人口構成が大きく異なる

旧町村別の人口ピラミッド(2010年)

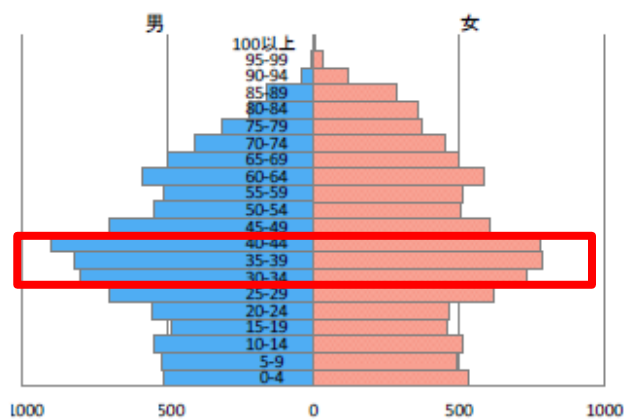
筑波地区

55~69歳が多い



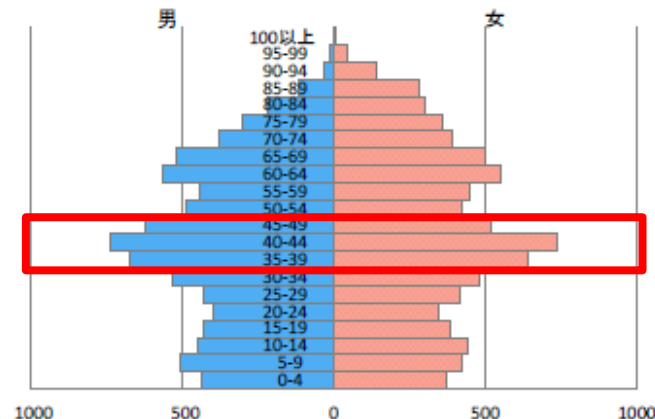
大穂地区

35~44歳が多い



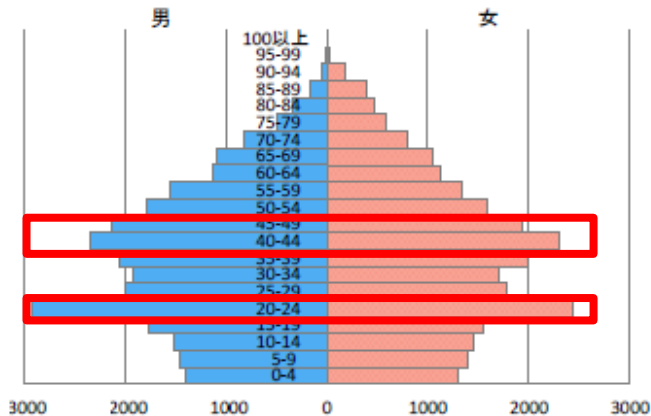
豊里地区

35~49歳の生産年齢人口が多い



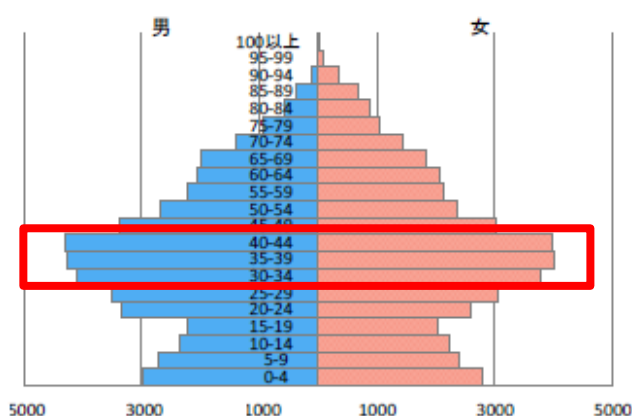
桜地区

20~24歳、40~49歳が多い



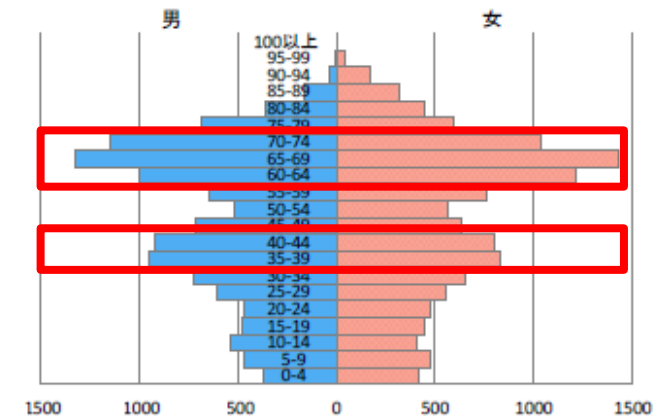
谷田部地区

30~44歳が多い



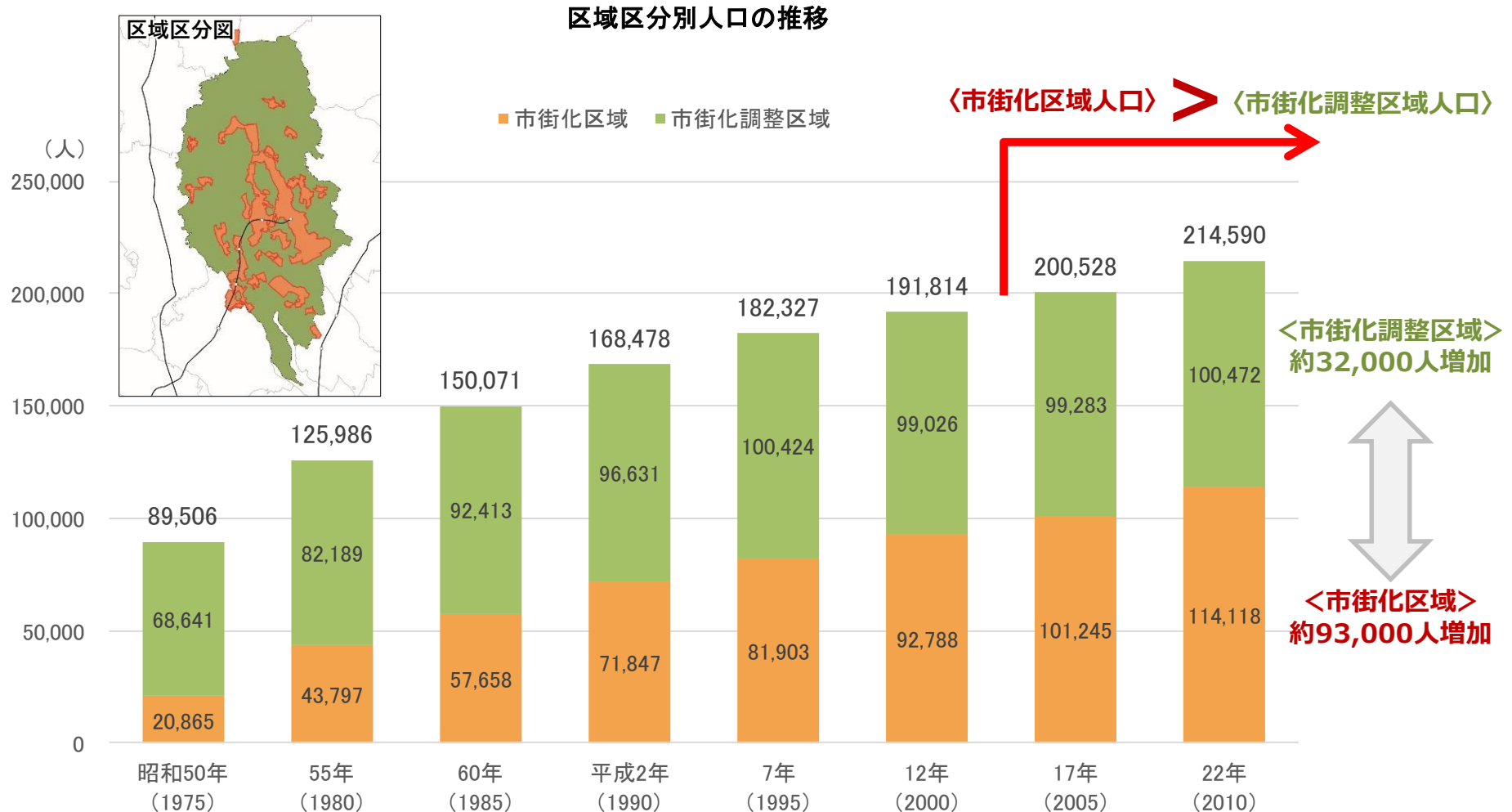
荃崎地区

60~74歳、35~44歳が多い



## 6) 区域区別の人口

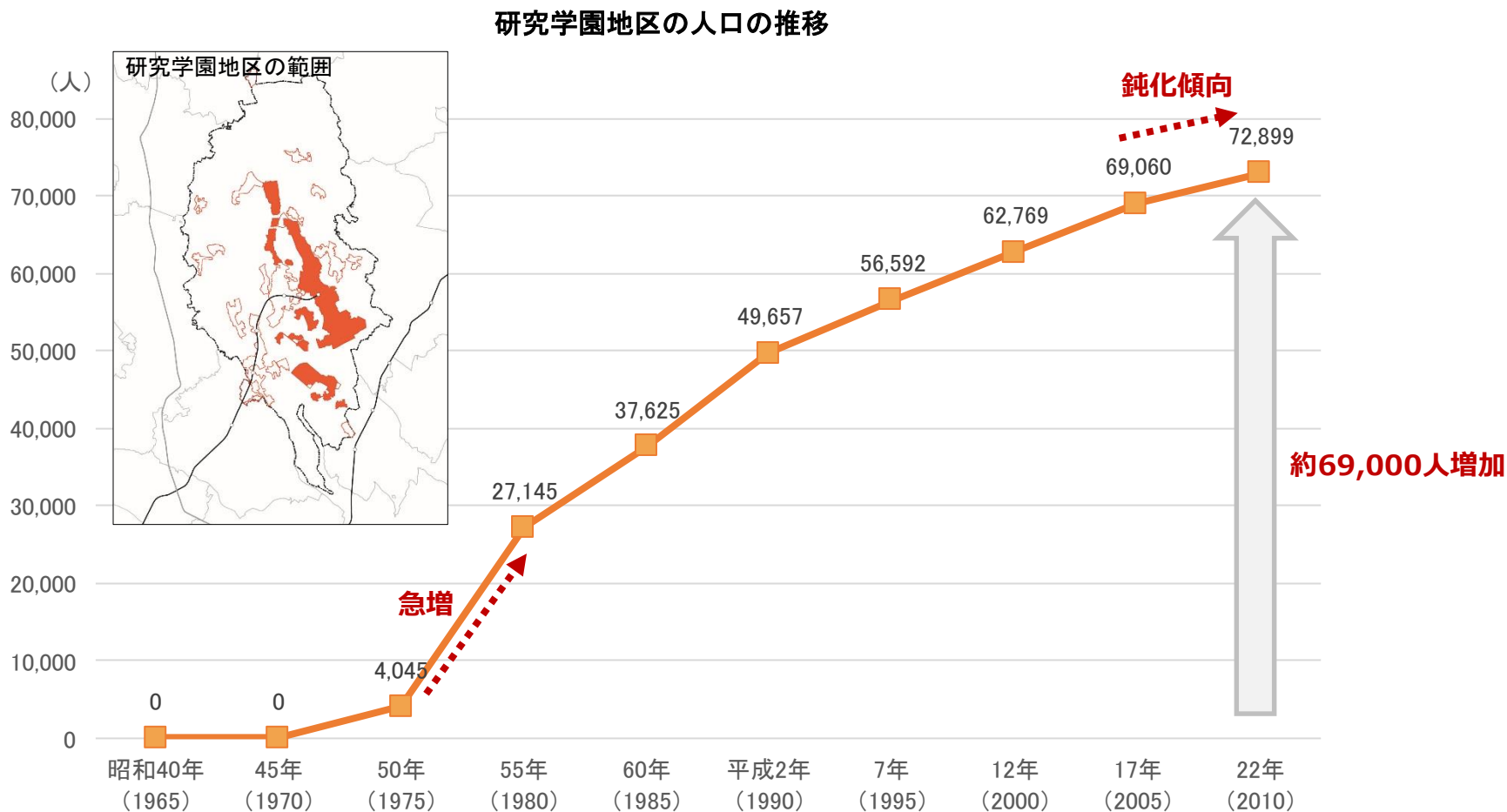
- 市街化区域の人口は、30年余りで約93,000人増加
- 市街化区域と市街化調整区域の人口比は、2000年代中ごろから逆転





## 7) 研究学園地区の人口

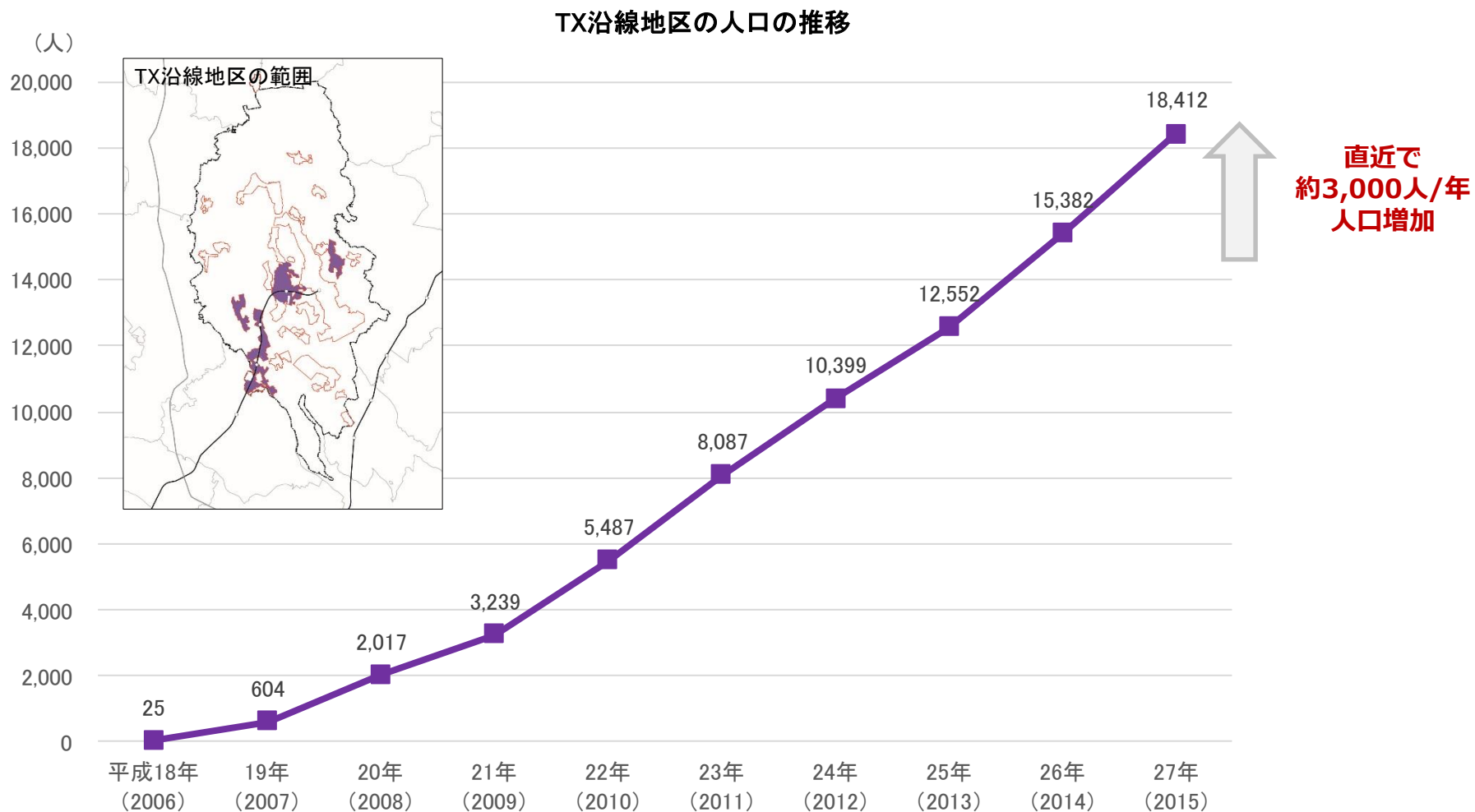
- 研究学園地区の人口は、30年余りで大きく増加
- 近年伸びが鈍化しつつある



資料：つくば市

## 8) TX沿線地区の人口

- TX沿線開発地区は、約10年で約18,000人が居住
- 近年は年間2,000～3,000人ペースで人口定着



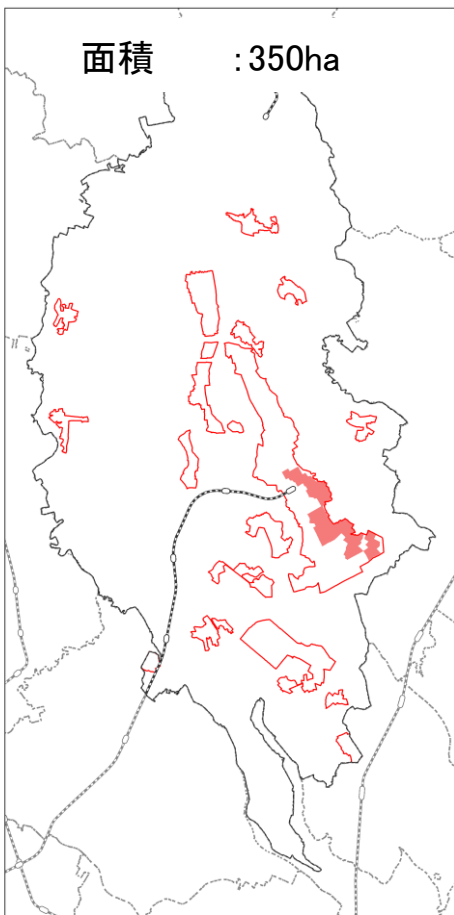
資料：つくば市（各年1月）

## 9) DID地区の拡大

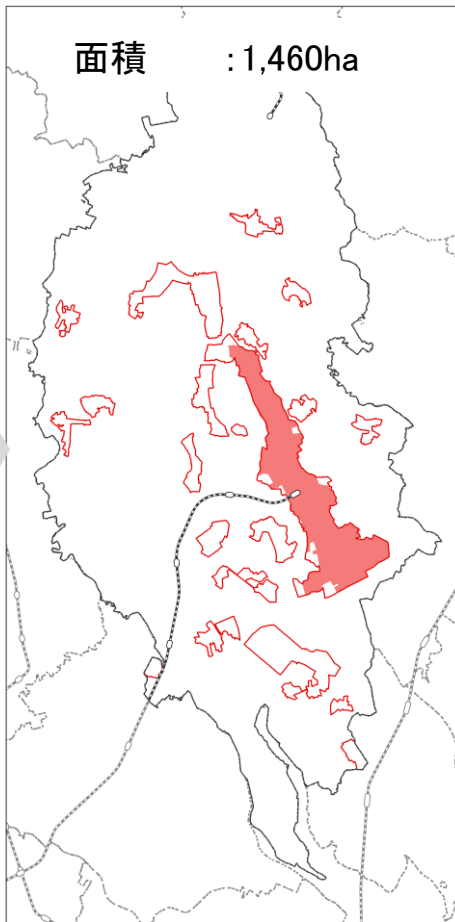
- 研究学園地区内は、大部分が人口集中地区（DID）に  
\* 人口集中地区（DID）：市街化を表す指標で人口密度40人/ha以上の連続するエリア

人口集中地区(DID)の変遷図

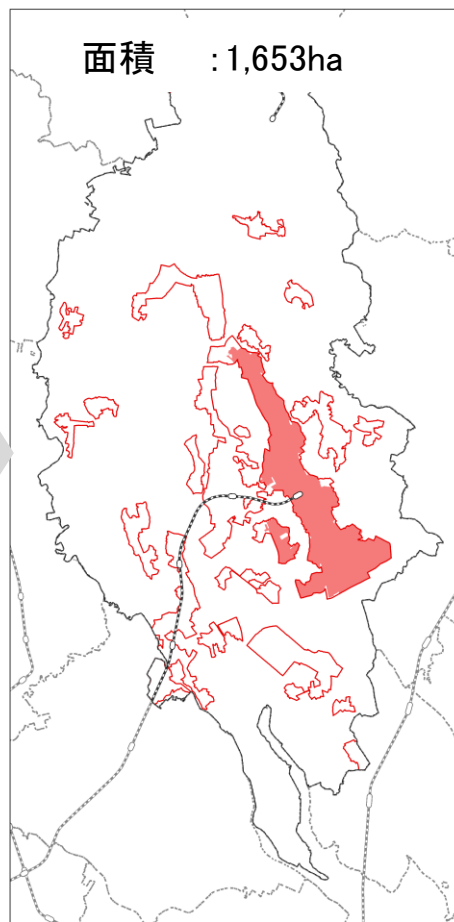
1980年



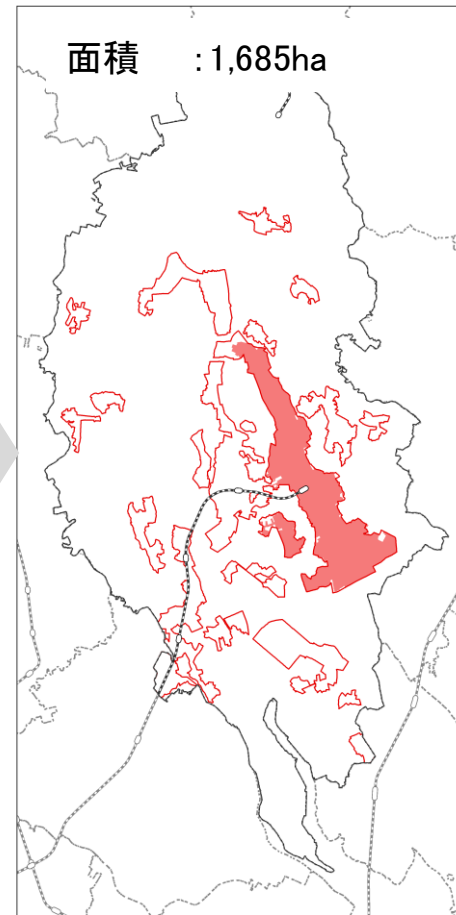
1990年



2000年



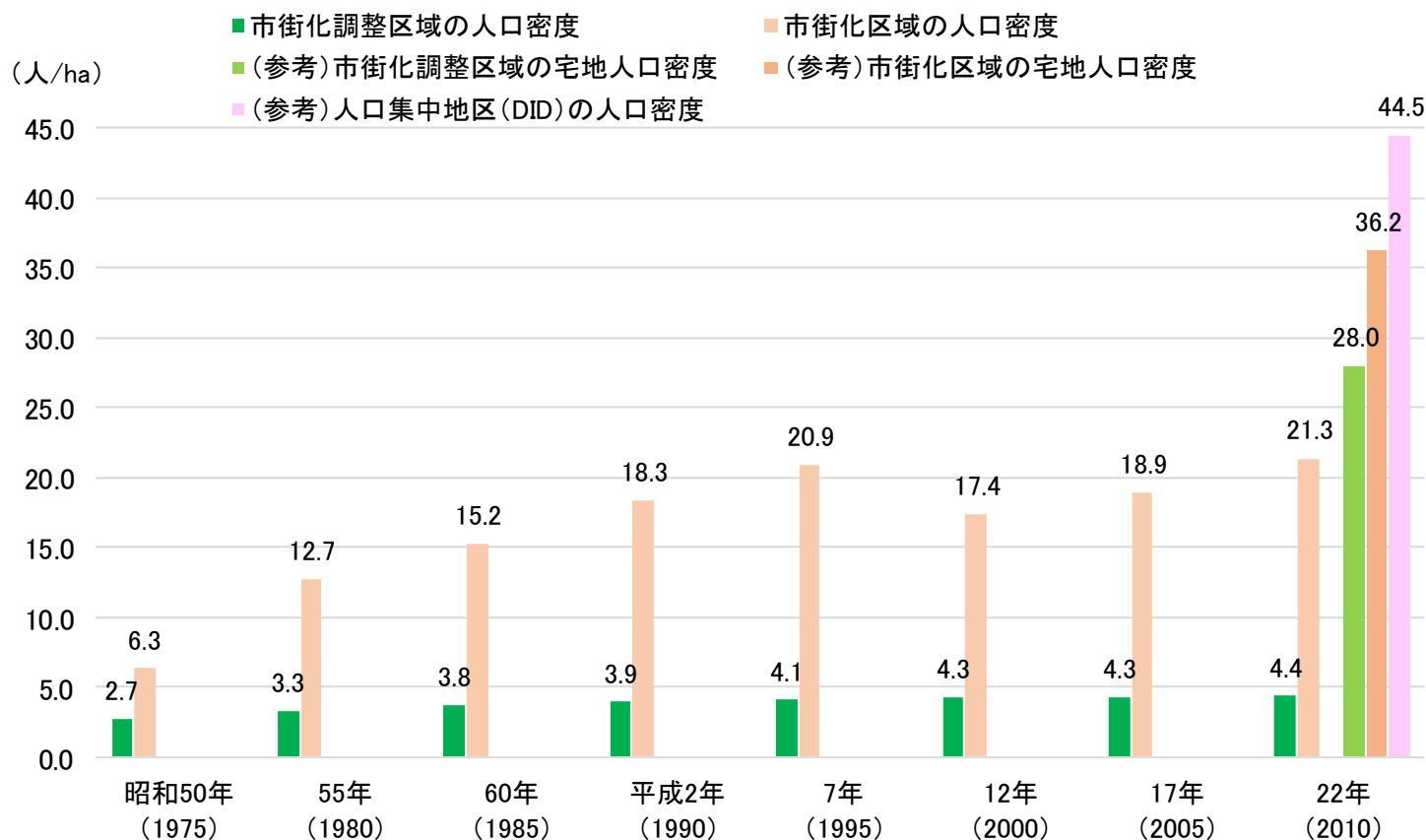
2010年



## 10) 区域区分別の人口密度

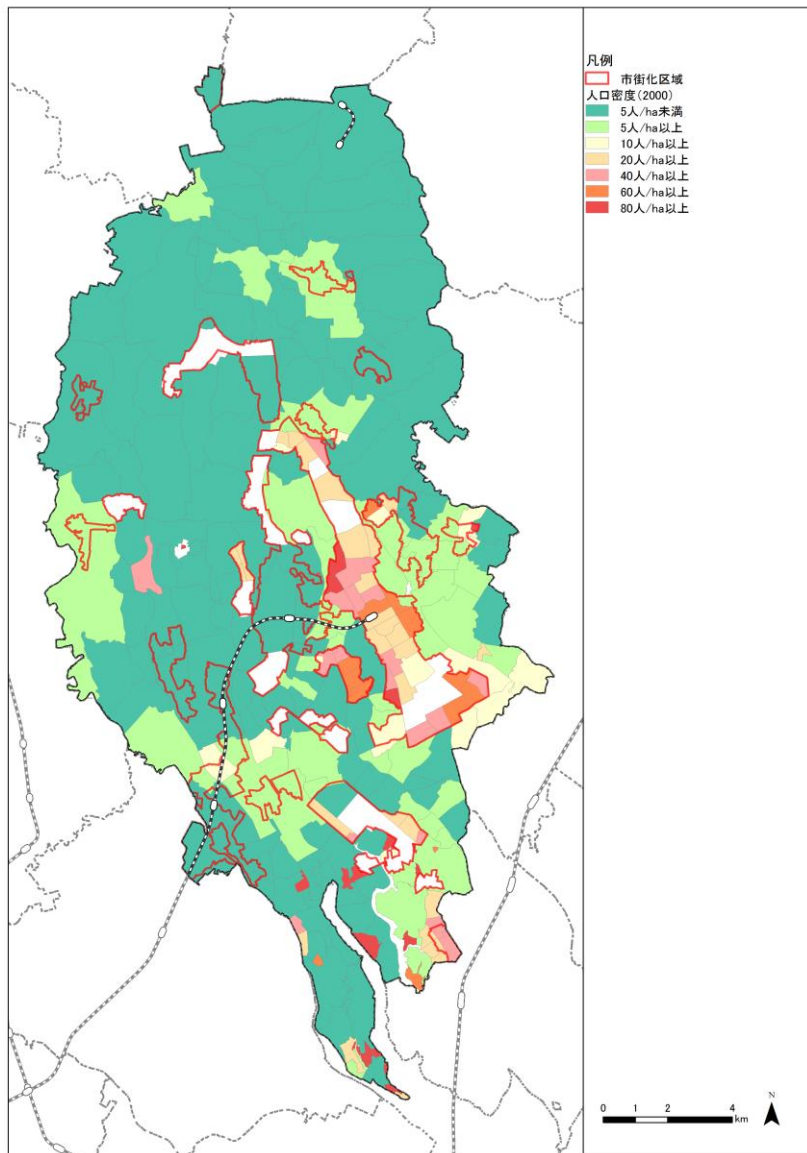
- 市街化区域は21.3人/ha、市街化調整区域は4.4人/ha
- 30年余りで、市街化区域と調整区域の密度は大きく変化

人口集中地区(DID)、区域区分別の人口密度の推移

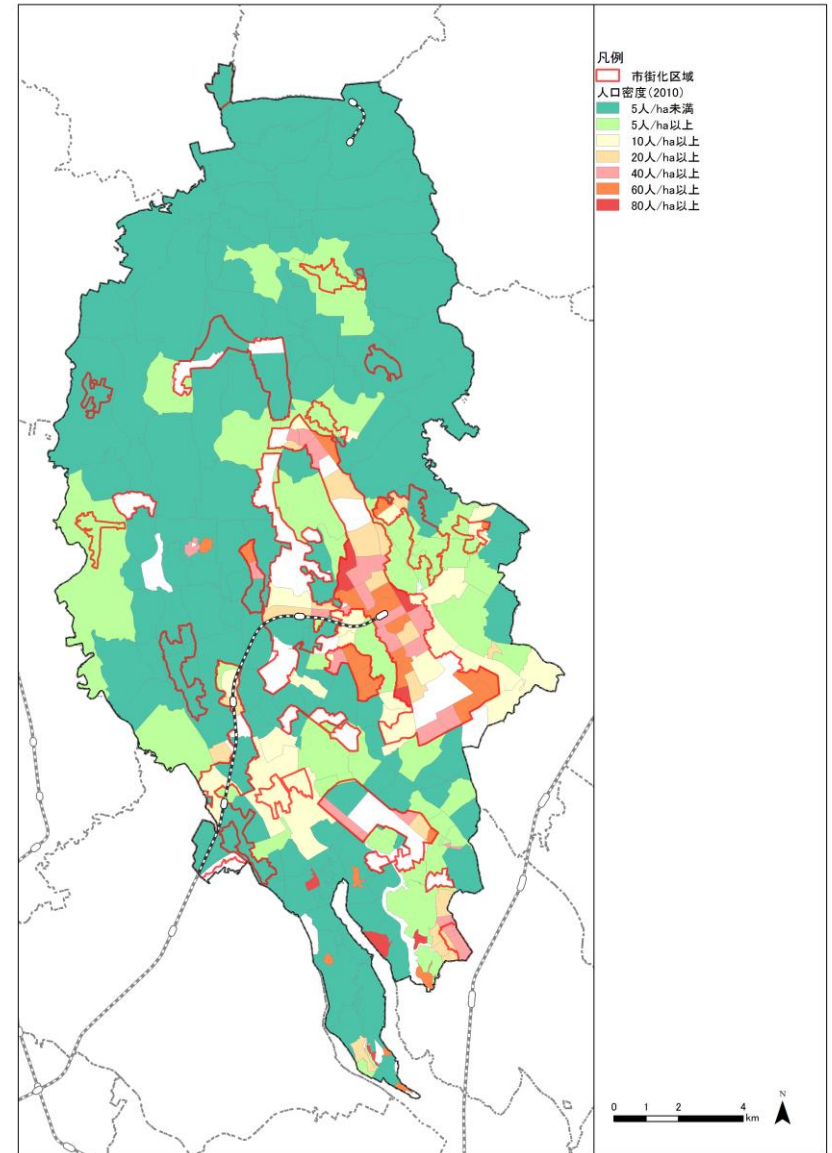


資料：都市計画基礎調査、国土数値情報

## (参考) 人口密度の変化 (2000~2010年)



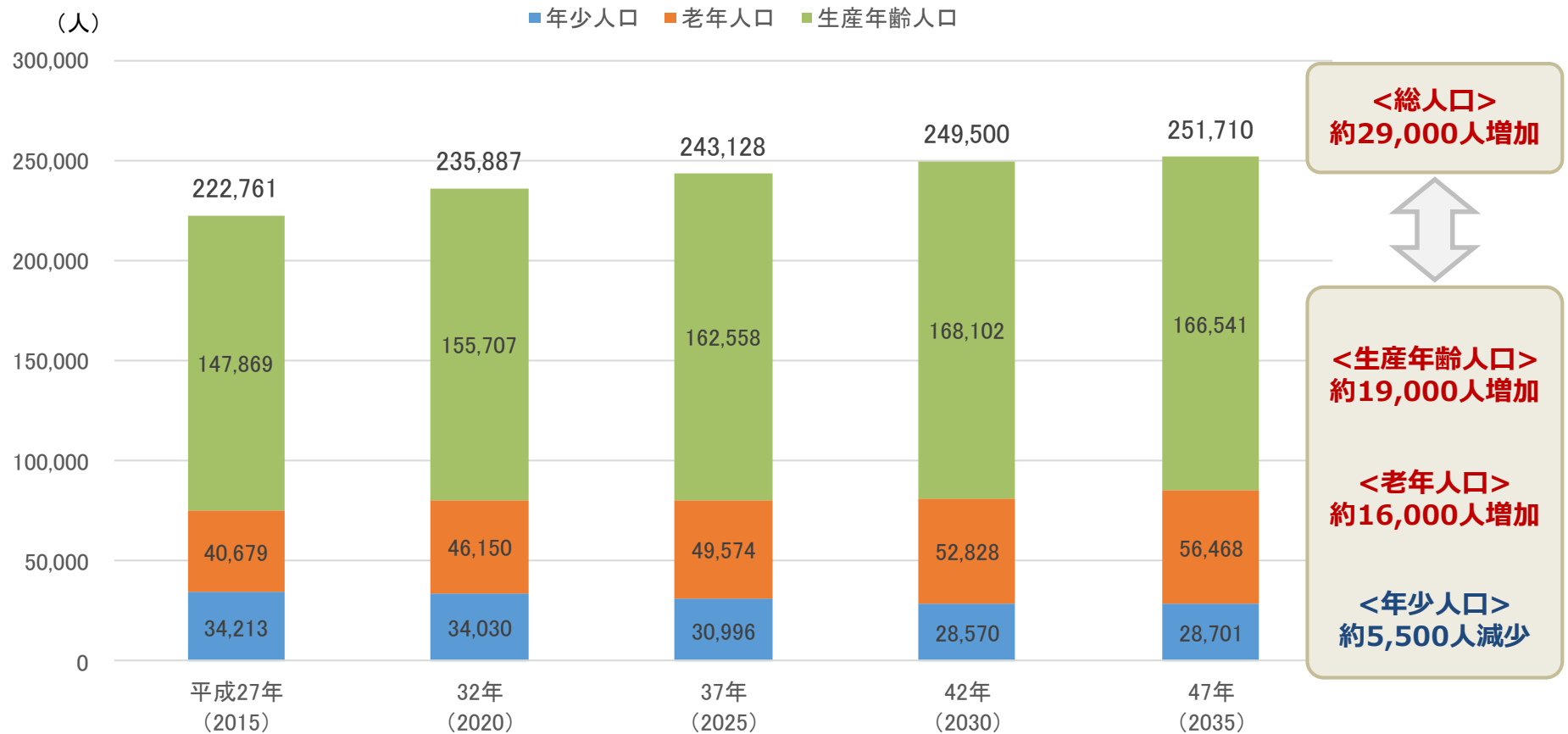
つくば駅周辺、  
研究学園駅周辺  
で人口密度増加



## 11) 将来人口の予測

- 市全体の人口は、引き続き増加し、2035年がピーク
- 一方で、生産年齢人口は増加、年少人口は減少し、高齢化率がさらに上昇

つくば市未来構想における将来人口の予測(2015~2035年)

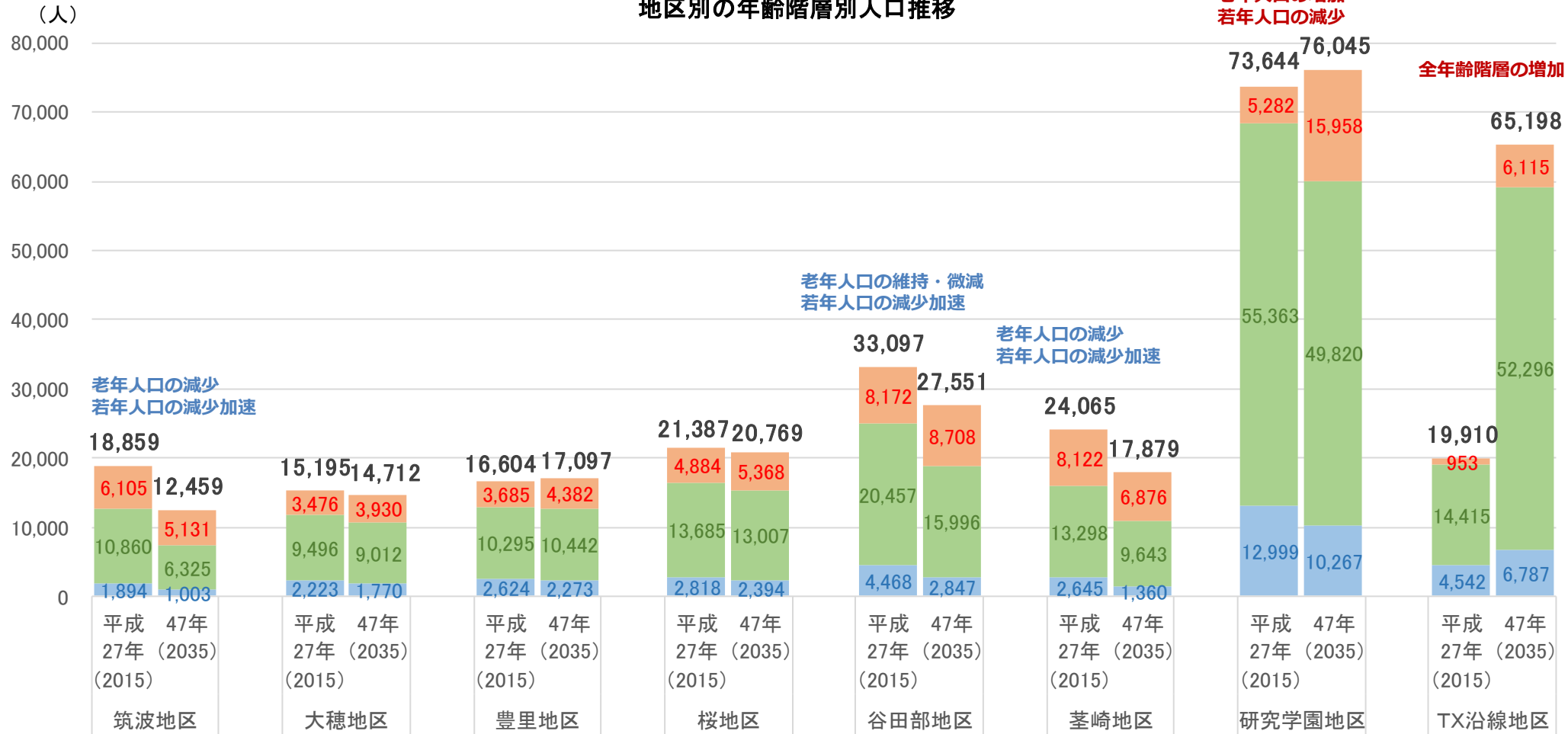


出典：つくば市未来構想資料  
 \* 研究学園地区、TX沿線地区は中位推計を使用

## 12) 地区別の将来人口の予測

- 地区別の人口数、年齢構成は大きく変化
- 今後も地区間の差が大きくなる可能性が高い

地区別の年齢階層別人口推移



出典：つくば市未来構想資料

\* 研究学園地区、TX沿線地区は中位推計を使用

## 現況と課題、今後の方向性

### 【現況】

- 市全体は、引き続き2035年まで人口が増加する
- 周辺部では人口減少が加速する一方で、TX沿線は人口が急増、今後20年間で地区間の人口実数・構成比の差が大きくなる
- 少子高齢化は全体的に進行しており、特に研究学園地区で高齢化率が上昇する

### 【将来の課題】

- 高齢化の進展に伴い介護・医療費が増加する
- 日常生活の移動が困難になる高齢者が増加する
- 周辺部では、人口減少・少子高齢化による、市街地の低密度化、それに伴う、生活利便施設等の撤退による生活の質の低下や維持コストの増大の可能性がある
- TX沿線での人口急増に対応した教育施設の整備や生活利便施設の誘導が必要となる

### 【今後の方向性】

- 自家用車に過度に依存しない都市構造、歩いて暮らせるまちづくり、公共交通の維持・確保、都市機能の適正な配置・誘導など、高齢社会に対応した多極ネットワーク型の都市構造の構築
- 周辺部では、子育て世代の呼び込みなど人口誘導に向けた、良好な住環境や生活利便施設、子育て支援施設等の維持
- 中心部では、新たな流入人口の定着を呼び込む、魅力ある市街地の形成とともに、今後進展する高齢化に対応した医療・福祉施設等の誘導